

中濃農林事務所の普及活動状況

令和3年2月28日現在

今月の重点活動

■ J Aめぐみの水田農業担い手協議会 水稻「あきさかり」栽培検討会の開催

中濃地域の水稲栽培では、「コシヒカリ」や「あさひの夢」の出穂期から登熟期の高温障害による品質（格付）低下が課題となっている。そのため、平成30年から担い手を中心に「あきさかり」の導入を推進し、平成31年度に県の奨励品種となった。

2月17日に栽培検討会が開催され、今後「あきさかり」の本格導入と所得向上に向けて、J A・全農岐阜・関連農林事務所間で令和2年産の実証ほ試験結果について情報共有を図るとともに、令和3年産の試験計画等について打ち合わせを行った。

農業普及課では今後も関係機関と情報共有を図り、連携して支援していく。



【検討会の様子】

(地域支援係)

新たなブランドづくり

■ 花き 県育成「かれん」シリーズの早春出荷

本県が育成したカレンジュラの新しい「かれん」シリーズは、これまでのイメージを一新し、寒さや病気に強く、一重咲で花壇や寄せ植えに最適な品種として期待されている。

管内鉢花生産者ハウスでは、「かれん」シリーズを早春の主要品目に位置づけ、10月に播種して約1万鉢を栽培していたが、今月上旬から3品種（レモンスフレ、レモンパンナコッタ、オレンジパンナコッタ）に専用ラベルを付して、初めて市場への出荷が開始された。

農業普及課では、農業技術センター研究員、農業経営課革新支援専門員とともに定期的に生産者を訪問して栽培指導を実施してきた。今後も継続して本県育成花きの現地栽培、販売を支援していく。



【出荷を待つ「かれん」】

(地域支援係)

多様な担い手づくり

■ 円空さといも 中濃里芋生産組合新規説明会

2月1日、関市小瀬のJ Aめぐみの施設内で、円空さといも産地規模の維持・拡大のため、中濃里芋生産組合新規説明会が開催された。新規に栽培を希望する8名が出席し、栽培方法や経営試算等を確認した。

説明会ではJ Aめぐみの栽培方法や組合への加入、出荷方法等を説明し、農業普及課からは病虫害防除について説明を行った。また、J A本店から来年度実施する就農塾を紹介し、数名が就農塾で学習しながら栽培を行うこととなった。参加者からは、売上高の経年変化やこれから行う作業等について、積極的な質問が出された。

農業普及課では、今後も新規栽培者の栽培指導を重点的に実施し、産地支援を行っていく。



【説明会の様子】

(地域支援係)

売れるブランドづくり

■ G A P 実践者 **ぎふ清流 GAP 評価制度を活用した現地指導**

1月19日及び2月2日に、管内のほうれんそう生産者となす生産者圃場において、GAP評価を行った。

ぎふ清流GAP農業評価規準に沿って、生産者と一緒に農業経営管理に関する書類や圃場・調製作業施設等の現地確認を行い、リスク（危害要因）の洗い出しを行った。生産者からは「そんなリスクがあるとは考えもしなかった。」といった声も聞かれ、自身の農業経営管理を見直す良いきっかけとなった。今後生産者は、ぎふ清流GAP評価制度のより高いレベルを目指し、作業環境改善等に取り組んで行く。

農業普及課では、今後も関係機関と連携を図りながら継続した支援を行い、食の安全、環境保全、労働安全等に配慮したGAPの取組みを重点的に推進していく。

（地域支援係）



【現地 GAP 指導の様子】

■ ゆず **せんだい研修会の開催**

2月9日、県農業経営課農業革新支援専門員を講師に招き、中濃農林事務所が主催してゆずのせんだい研修会を開催した。

午前中は、上之保ゆず研究会（仮称）の第1回目の行事として成木のせんだい研修を行い、午後からは、過去5年間にゆず苗を購入した者を対象に幼木のせんだい研修を行った。当日は小雪が舞う寒い中での研修となったが、参加者からは多数の質問が出て充実した研修会となった。

農業普及課では、今後もゆずの生産量を増やすため、生産者や研究会に対して継続した支援を行っていく。



【研修会の様子】

（地域支援係）